

三瓶山の温泉

温泉は、元は地球の地殻内から上昇してくる、地熱で熱された地下水である。通常、地下水は地球のマントル内からの熱放射により熱された岩に接することで熱くなるが、火山活動地域の湧水はマグマに直接接することで熱くなる。三瓶山の温泉は後者のケースに当てはまる。実は、中国地方ではマグマにより温められた温泉はここにしかない。

三瓶温泉は孫三瓶山と日影山の間にある山麓谷部から湧き出ている。そこから毎分 360 リットルの水が斜面を降下し、その温度は 39～41℃である。川底の岩や泉源の湧出口は温泉水により赤金色に染まっており、これは鉄分が高いため朱色が沈殿したものである。

三瓶山西方に位置する池田ラジウム鉱泉は 1 リットル当たり約 89,338 ベクレルと、世界のどの泉のラドンの中でも濃度が非常に高いことで知られている。（放射能泉の基準濃度は 1 リットル当たり 111 ベクレルである。）ラドンはラジウムの放射性崩壊により生成されるが、これは火成岩には自然にみられる。温泉の放射性元素は人体に害を与えない。事実、一部の研究により、低線量被ばくには、人体の免疫系を刺激し健康を促すホルミシス効果があるということがわかっている。